

第356回

日本泌尿器科学会新潟地方会

《プログラム・抄録》

日時：平成22年12月11日(土)午後3時45分

会場：新潟グランドホテル 4階『メイプル』

新潟市中央区上大川前通3ノ町 025-228-6111

次回 第357回新潟地方会予告

日時：平成23年3月12日(土)午後3時

会場：未定

演題申込期限：平成23年2月10日(木)

※ すべてPCのみの発表とさせていただきます。

※ 口演時間は、7分。討論3分(時間厳守)

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通1の757

新潟大学医学部泌尿器科学教室内

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL : 025 (227) 2289 / FAX : 025 (227) 0784

会長 高橋 公太

15:45-17:00

座長 原 昇

1. 高抗体価で施行した ABO 血液型不適合腎移植の一例

新潟大学腎泌尿器病態学分野

白野侑子、瀧澤逸大、星井達彦、中川由紀、斎藤和英、高橋公太

ABO 血液型不適合腎移植において、抗血液型抗体が高い症例は移植後抗体関連型拒絶反応の危険性が高く移植が困難とされてきた。しかし、移植前に確実に減感作療法を行うことで抗体価の高い症例でも移植が可能となってきた。今回我々は、術前抗 B 抗体 IgM64 倍、IgG2048 倍の 33 歳男性に対し、減感作療法、リツキシマブ、PEX を術前に行うことで抗 B 抗体 IgM16 倍、IgG256 倍まで低下させて B 型から O 型への ABO 血液型不適合腎移植を施行した。術後抗体関連型拒絶反応なく、Cr : 1.67mg/dl、Ccr : 69.1ml/min で経過観察中である

2 鼠径部に発生した骨外性骨肉腫の 1 例

新潟大学腎泌尿器病態学分野

鳥羽智貴、瀧澤逸大、笠原 隆、谷川俊貴、原 昇、高橋公太

症例は 84 歳男性。左鼠径部腫瘍を主訴に関連病院泌尿器科を受診した。CT にて同部に造影効果の強い径 2.5 cm の腫瘍を認めたため当科を紹介受診した。手術所見では外腹斜筋膜に接する皮下腫瘍であった。病理診断は線維性間質を背景に紡錘形から類円形細胞の不規則な増殖に巨細胞を散見する骨肉腫であった。発生母地と臨床病理につき考察を行う。

3. 急性陰囊症で発症した精巣腫瘍の 1 例

刈羽郡総合病院泌尿器科 池田正博、羽入修吾

症例 : 21 歳男性。左精巣の突然の疼痛と腫大を自覚。38 度台の発熱、左下腹部痛、腰痛、頭痛を伴った。2 日後、近医受診、精巣捻転の疑い。紹介で当科初診。左精巣 6×6×6 cm、挙上は無く、精索・精巣上体は触知可能。精巣に圧痛あり。エコーでは精巣内部は不整。AFP178.7、CEA19.2。T1NOMO 病期 I と診断し手術を施行。病理診断は奇形腫+卵黄囊腫で、腫瘍内出血を認めた。

4 当院における精巣腫瘍の患者背景についての検討

新潟県立がんセンター新潟病院 泌尿器科¹⁾、同 病理部²⁾

小林和博¹⁾、秋山さや香¹⁾、斎藤俊弘¹⁾、北村康男¹⁾、川崎 隆²⁾

1981-2010 年に当院で精巣摘出術を施行した 204 名を検討した。最近の患者は以前に比べ、自覚症状から初診までの期間がやや短く、腫瘍径が小さい傾向があったが、直近の 10 年間でも半数以上は腫瘍径が 5cm 以上で、受診までに 2 か月以上を要していた。精巣腫瘍の存在や早期発見のための自己検診を認知させる取り組みが望まれる。また、未治療停留精巣 3 名、学童期以後に手術した停留精巣 5 名に精巣腫瘍が生じており、停留精巣治療の重要性も伺われた。

5. ビスフォスフォネート製剤投与中に下顎骨壊死と下顎皮膚潰瘍をきたした前立腺癌骨転移の1例

新潟市民病院 今井智之、川上芳明、筒井寿基

69歳。2007年9月初診。前立腺癌多発骨転移（cT2bN0M1）に対してホルモン療法＋ゾレドロン酸を開始した。その後ホルモン抵抗性となり、2009年2月からタキソテールを4週ごと投与していた。同年12月微熱と倦怠感で入院。左耳下から下顎にかけて皮膚の痛みと発赤腫脹あり。CTでは骨の変化は認めず皮下の浮腫状変化のみであった。経過観察としたが、翌年1月皮膚に潰瘍を形成。下顎骨腐骨による皮膚への炎症波及と判明した。腐骨の状態と予後から外科的治療は行わず、ゾメタ中止と対症療法でいったん皮膚潰瘍は治癒した。しかし6月に再び皮膚潰瘍が出現。その後は治療の効果無く、口腔底が欠損するに至った。

6. 慢性非細菌性前立腺炎に対するノイロトロピンの有効性

会津クリニック 玉木 信

ノイロトロピンはワクシニアウイルス接種家兎炎症性皮膚抽出液を有効成分とする慢性疼痛治療製剤であるが、同剤の慢性前立腺炎への有効性の報告はない。我々はNIH-国際前立腺炎症状インデックス（NIH-CSPI）を用いて慢性非細菌性前立腺炎に対する同剤の有効性を検討した。ノイロトロピン投与にてNIH-CSPIの痛みドメイン、排尿状態ドメイン、生活の質ドメインともに有意に改善し、治療への有用性が示された。本報告が同剤の慢性前立腺炎への最初の有効性報告である。

7. 当院のHoLEPと今後の展開

済生会新潟第二病院 吉水 敦、車田茂徳

当院ではHoLEPを2006年7月より開始し2007年12月にある程度の手技を完成させ2010年10月末までに875例の症例に施行してきた。その手術件数は2008年度と2009年度のDPC全国統計で前立腺肥大症の手術件数日本一であった。広報活動にも力を入れており今年の第98回日本泌尿器科学会総会で発表したビデオHoLEP：逆行性一塊核出法とそこで利用している手術ビデオの無修正版を今年5月よりHPに掲載し、2010年10月18日にはYou TubeにHoLEP RETROGRADE ONE PIECE ENUCLEATION METHOD /from Niigata in Japanを投稿した。今後若い医師達からも共感してもらえるような新しい診療スタイルを創ったり国際受診への対応を考えている。

新潟泌尿器科同窓会総会

17:05～17:35

[会場 4階 メイプル]

[休憩 17:35～17:55]

休憩後「第29回新潟泌尿器科腫瘍研究会」を4階「メイプル」で開催されます。
研究会終了後、新潟地方会・同窓会合同懇親会を3階「悠久の間」で開催致します。